

山一運輸物流倉庫プロジェクト

周辺環境

南北に細長い配置とすることで、北側住民に壁面による圧迫感を感じさせない配置とする。また、ストライプ模様を施すなど、長大な壁面を感じさせない色彩計画とする。

敷地の一部を周辺住民にも利用できる周景緑地とすることで、広大な敷地を大きく迂回せずに周辺歩行者が幹線道路へアクセスできる。良好な環境を周辺に提供することで環境イメージをアピールできる。

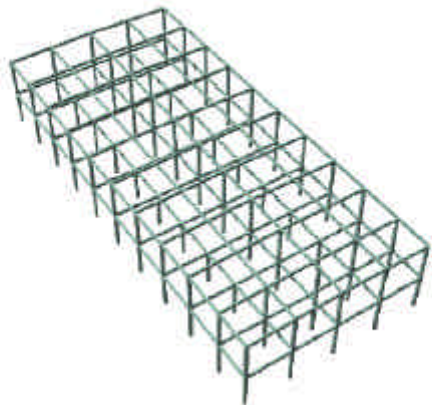


構造計画

貨物パレットモジュールを基にフレームスパンを決定する。

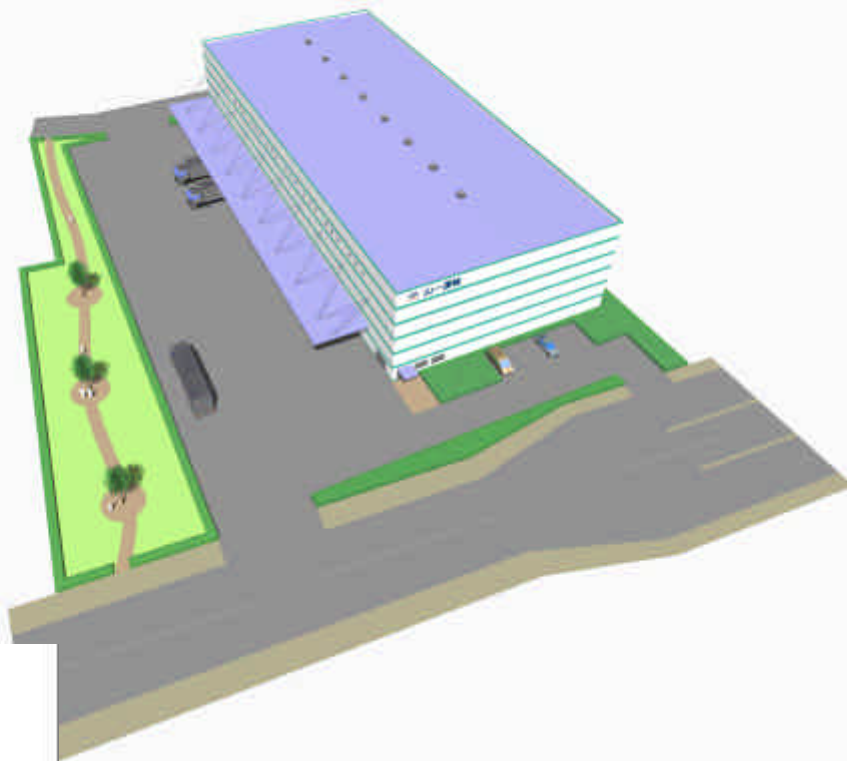
梁下有効寸法5500以上とする。

1階は2500 kg / m²以上を確保するため概ね8mグリッドで柱を配置するが、2Fについては上部が屋根となるため、1スパンずつ減らし軽量化を図る。



3つの向上

企業利益の向上
ブランドイメージの向上
周辺環境の向上



設備計画

湿度管理を必要とする商品にも対応できるよう以下の計画とする。

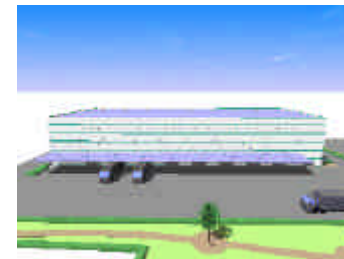
- ・十分な換気計画
- ・ルーフファンによる自然換気と機械換気による2段階の換気。
- ・センサーによる自動換気システム。
- ・床からの湿度を抑えるための十分な防湿対策。

コスト削減

極力方形な形状とし、凹凸を少なくすることで

- ・最小限のフレーム
- ・最小限の屋根面積
- ・最小限の壁面

とし、コスト削減を図る。



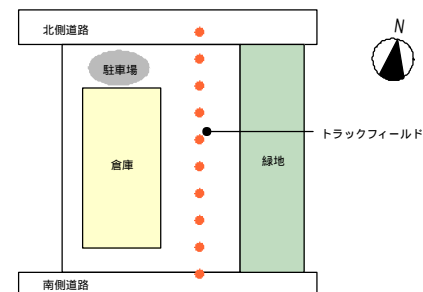
動線計画

従業員・来客による駐車場動線とトラック動線を分離し安全性と円滑な運用を図る。

事務ゾーンを大通り沿いに配置し、トラックからの視認性を向上させる。

東側に入口を設け、南北に長い形状とすることで、南北道路とトラックフィールドがつながり、トラックの動線に自由度を持たせる。

トレーラーの回転軌跡が取れるようトラックフィールドを確保する。



画像は提案イメージであり、詳細な構造検討および実施における施主協議により変更することがあります。